

カイゴのかわら版

緊急!



和田行男さん

ティマネージャー)と
館石宗隆さん(札幌市
東区保健福祉部部長)
によるトークセッション
「介護保険(制度・報
酬)にも申す!」。介
護保険のこれまでの経過や
課題、グループホームが置
かれている状況や存在意義、
今後に向けた展望などに
ついて、3時間にわたり議論
がなされました。

セッションではそうした認
識が強調されました。
今後に向けて

第2部は「介護保険(制
度・報酬)を問う」と題し、
参加者からの異見・質問に
和田行男さんと館石宗隆さ
んが答えるという質疑応答
の形式で行われました。

参加者の多くも、前述の
ような「襟を正す」ことの必
要性を実感しており、その
実現に向けては、互いに指
摘し合うような横のつなが
りの関係性を築くことも大
切であるといった意見が出
されました。



「認知症ケアはクリエイ
ティブな仕事」と和田行男さ
んは言います。基本的なス
キルを身につけるのはもち
ろん、その場、その時に何を
考え、どう実践するか。今回
の介護保険改正は、自らの
すべきことを再確認する良
い機会といえるかもしれま
せん。そして、自分の仕事に
プライドをもち、社会に発
信していく行動力も求めら
れるといえるでしょう。■

北海道グループホーム 事業者ミーティング開催

開催の経緯

去る11月4日(金)、北海道
札幌市の「かでる2・7」に
おいて、一般社団法人北海
道認知症グループホーム協

会場の様子



会主催のもと、「北の国か
ら! 北海道発 グループ
ホームの主張!」と題した
緊急ミーティングが開催さ
れました。

現在、介護保険制度の改
正に向けて、社会保障審議
会などで介護報酬の見直し
の議論が進められています
が、これに対して、グルー
プホームとして「自分たち
の行ってきた専門性ある支
援と、経営や運営をしっか

り見つめ、日頃から疑問に
思っていることなどを提案
するというのが目的の
ミーティングです。グルー
プホームの管理者を中心
に約150名の参加者が集ま
りました。

自らの襟を正すことも必要

緊急ミーティングは2部
構成にて行われました。第
1部では、和田行男さん(大
起エンゼルヘルプ クオリ



館石宗隆さん



司会進行を務めた北海道認知
症グループホーム協会会長の
宮崎直人さん

「グループホームとして
は、制度批判に終始するの
ではなく、自分たちがやる
べきことを明確にし、襟を
正すことも必要」。トーク